

令和6年度 静岡市 英語教育改善プラン

目標

異なる文化を持つ人々と自信を持ってコミュニケーションをとることができ、地元への愛情を持ちながら国際的に活躍できる子どもを育てる ～言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する授業を目指して～

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①・・・「英語の授業以外の授業や学校行事での児童との交流」にALTが参画した学校の割合が増加
R4:41.0%⇒R5:51.8%

未だ改善が必要な点

①・・・授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合
R4:95.7%⇒R5:89.6%

②・・・全ての学校のうち、英語の授業において「児童がデジタル教材等を活用した授業※デジタル教科書は含まない」を実施した学校の割合 R5:78.3%
(R4:データなし)

2. 要因分析

①・・・日常生活において積極的に英語を使う日（イングリッシュデイ）を実施したことで、各校が工夫してALTと児童がふれあう時間を増やすことができたと考えられる。

①・・・目的、場面、状況の設定に課題がある。児童の発話が英語の練習にとどまり、自分の思いや考えを伝えるに至っていない。

②・・・デジタル教科書は多くの学校が活用している。
(81.9%) 使用できるデジタル教材の情報と知識が不足している。

3. 目標を達成するための施策・事業

①イングリッシュデイの推進

児童が英語に接する機会を拡充するために、イングリッシュデイの企画を各校において継続して行う。また、ALTの研修において、イングリッシュデイの好事例を共有し、全市で有意義な活動をつくることができるように留意する。

①・・・専科教員の研修を充実させる。

- (1) 外国語活動、外国語科の授業についての説明会
- (2) 外国語活動、外国語科の授業作りについての講義、演習
- (3) 効果的なALTの活用のためのワークショップ

②・・・デジタル教科書以外のデジタル教材の研究

ICTの効果的な活用を進めるため、クラウドによる情報交換ツールを用いて積極的に好事例を紹介する。

令和6年度 静岡市 英語教育改善プラン

目標

異なる文化を持つ人々と自信を持ってコミュニケーションをとることができ、地元への愛情を持ちながら国際的に活躍できる子どもを育てる。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R5：56%⇒R6：57%）

○授業において生徒が言語活動に取り組む機会を増やす（R5：63%⇒R6：90%）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①・・・「教師とのやり取りを生徒に示すモデル提示」、「生徒とのやり取りの相手」、「発音のモデル、発音指導」、「生徒の発言や作文等に対するコメント・フィードバック」にALTが参画した学校の割合 R5:100%

①・・・授業中、50%以上の時間言語活動を行っている学校の割合 R4:81.1%⇒R5:63.0%

②・・・全ての学校のうち、英語の授業において「生徒がデジタル教材等を活用した授業※デジタル教科書は含まない」を実施した学校の割合 R5:83.7%

③R5全国学力学習状況調査の結果から、「まとまりのある文章を書く」の正答率が10.6%（全国比+3.1）

未だ改善が必要な点

2. 要因分析

①・・・ALTに対する研修を実施したことで、ALTが効果的に授業支援ができるようになってきたことと、ALTの効果的な活用について、学校の理解が進んだことで、ALTの参画が多方面で見られた。

①・・・授業者による教科書の内容解説や、文法説明、パターンプラクティスの割合が多く、言語活動を行っている時間の割合を減らす原因となっている。

②・・・個別最適な学びにつながるために、デジタル教科書だけでなく、デジタルドリル等の効果的な活用が検証されるべきだが足りていない。

③自分の意見を持つことと、その内容を表現する力を高める機会が十分に与えられていないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①ALTに対する研修を増やし、さらなる充実を図る。また、効果的なALTの活用方法について、授業者により詳しい情報を共有する。さらに、イングリッシュデイやイングリッシュカフェなど、授業以外で子どもたちが英語に触れる機会を引き続き提供し、生徒とALTとの距離を縮めていく。

①・・・言語活動の場面を増やすための教員の指導力向上のための研修を行う。

（1）中学校外国語科の授業づくり
講師による講義や演習を通して、授業づくりのポイントを習得する。

（2）教科指導力向上研修
模範となる授業を参観することで、言語活動の効果的な取り入れ方について学んだり、授業観を磨いたりする機会とする。

②・・・デジタル教材についての情報を集めて、効果的な活用方法について検証する。また、MEXCBTを活用した学習法を周知する。

③・・・授業で言語活動の場面を増やすことで改善されると考えられるため、①を推進する。

令和6年度 静岡市 英語教育改善プラン

目標

異文化の人など多様な他者との協働により、広い視野・国際感覚を身に付け、グローバルに活躍する生徒を育てる
○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R5 : A2以上85.6%、B1以上23.2% ⇒R6 : A2以上85%以上を維持、B1以上25%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①CEFR A2レベル相当以上が増加
(R4:79.4%⇒R5:85.6%)
 - ②授業における生徒の英語による言語活動が、授業の半分以上と回答した学校の割合が増加
(R4:40%⇒R5:43.5%)
 - ③パフォーマンステスト「話すこと」「書くこと」の両方を実施している割合が増加
(R4:5%⇒R5:34.8%)
- ①CEFR B1レベル相当以上が昨年より減少
(R4:51.9%⇒R5:23.2%)

2. 要因分析

- ①授業等において、こまめな単元テスト等を実施に加え、生徒のアウトプット活動を増加したことで、生徒の英語 4 技能が改善したと考えられる。
 - ②英語のアウトプット活動において、英語の使用場面を生徒が主体的に設定したことで、アウトプット活動への意欲が高まり、活動の質が改善したと考えられる。
 - ③定期テスト以外の機会を検討したことで、実施する機会の創出につながり、特に「話すこと」のテストが増加したことが考えられる。
- ①より高度な 4 技能の育成よりも、基礎基本の徹底に重きを置いた指導が実施されたことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①一人一台端末等の活用による、時間や場所にとらわれない言語活動の推進
- 現在、一人一台端末をWi-Fi環境で使用できる時間と場所が限定されているため、令和 6 年度高等学校DX加速化推進事業における校内Wi-Fi化の推進により、生徒がいつでもどこでも、またALT以外の英語母語話者との言語活動を行う環境を整備する。
(R6: 体育館等へのWi-Fi拡充、DX人材による英語を活用したオンラインによる学びの提供を実施)
- ①グローバルに活躍することが期待される層（CEFR B1相当以上）を拡充するための取組の推進
- 「グローバルに活躍することが期待される層」の増加を目指し、「実際にグローバルに活躍する本県の大学院で研究をする留学生」をロールモデルとし、授業等への参画を今まで以上に実施する。
(R5: 所管する 2 校 4 学科のうち 1 学科) → (R6: 2 学科以上への参画)

静岡県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		95%	85.60%	95%		95%		95%		95%	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50%	23.20%	50%		50%		50%		50%	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		50%	43.50%	50%		50%		60%		60%	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		50%	34.80%	50%		50%		60%		60%	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100%	100%	100%		100%		100%		100%	
		公表（％）	100%	100%	100%		100%		100%		100%	
		達成状況の把握（％）	100%	50%	100%		100%		100%		100%	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		100%	83.30%	100%		100%		100%		100%	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		95%	26.10%	95%		95%		95%		95%	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50%	56%	57%		58%		59%		60%	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		90%	63%	90%		90%		90%		90%	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		85%	80%	85%		85%		85%		85%	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100%	100%	100%		100%		100%		100%	
		公表（％）	100%	48.80%	100%		100%		100%		100%	
		達成状況の把握（％）	100%	55.80%	100%		100%		100%		100%	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		50%	49%	50%		51%		52%		53%	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		95%	61.40%	90%		90%		90%		90%	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100%	90%	100%		100%		100%		100%	
		公表（％）	70%	59%	70%		70%		70%		70%	
		達成状況の把握（％）	80%	75%	80%		85%		90%		95%	